

# 「幼稚園と小学校の学びのつながり」

認定こども園 石川文化幼稚園・クローバー保育園長 掛田昌克

## 日々の生活の中での学び

先日、当園保護者が中心で行っている子育てサークルさんから子ども達にサツマイモ掘りのご招待をいただき、中田地区の農園に行ってきました。

さすがはプロの作るイモで、大きく、立派なイモに子ども達は大喜び。楽しみながら、土に触れ、イモを掘り、貴重な自然体験をしてきました。

掘ったイモを友達と袋に入れて、いっぱいになると私がネコ（一輪車）で軽トラの荷台まで運びます。

「あとどのくらい入るかな？」

「ん～（袋にあとどのくらいのスペースがあるか見て考えている）あと5個くらいかなあ・・・」

「じゃあ、掘ったら持ってきてね」

「（両手にイモを持ちながら）園長先生、お願いしま～す」

「2つ入れるね。あと何個？」

「ん～（残りの数を考えている）あと・・・3個！」

「はい、あと3つお願いします」

「はい。一人で持てないので、Aさんと一緒に持ってきてま～す」

こんなやり取りがありました。

芋ほりでは、友達と力を合わせて掘り進めたり、イモが地下茎植物であることを知ったり、大きさと量の感覚を深めたりといろいろな学びがありますが、何気ない会話の中に、 $5 - 2 = 3$ の引き算があったりと、小学校教育に繋がる学びの機会がちりばめられています。

## 幼稚園と小学校の学びのつながり

以前、文部科学省幼児教育課長の講演を聴く機会がありました。講演の内容は、「幼児教育の重要性」と「幼保小接続の改善に向けた取り組み」についてでした。

この中で課長は

- ①幼稚園はただ遊んでいるのではなく、遊びの中で子ども達は将来につながる重要な学びをしていることが、これまでの調査・研究で明らかになっている。
- ②このことを、幼稚園は強く発信し、国民、特に小学校以降の先生に知ってもらう必要がある。
- ③幼稚園での学びがどのように小学校教育の基礎となっているかの理論的でわかりやすい資料を文科省で製作する計画がある。
- ④幼稚園での教育は、幼児の特性を鑑み、行われ、小学校教育の内容の前倒しになってはいけない、ということをお話ししていました。

## 幼稚園の生活は学びがいっぱい

冒頭の、サツマイモ掘りでの例の他にも、園庭のジュンベリーの花が咲くと、「お花が散ると今年もジュンベリー食べられるかなあ」（花が咲く→受粉→花が散り、子房が膨らむ→果実ができる。小5「植物の実や種子のでき方」）や影踏み遊びや樹木の影を見て、時間帯や季節によって影の長さ、濃さの変化、地面の暖かさ、風向きの違い（小学3年生「太陽と地面の様子」）に気づいたり、砂場で山を作り、水を流しながら砂の粒の大きさ、地面の傾き、水の量で流れ方が違ったり、しみこみ方が違うこと（小4「雨水の行方と地面の様子」小5「流れる水の働きと土地の変化」）に気づいたり幼稚園は、小学校以降で学ぶことの基礎を好奇心旺盛に、楽しく体験、体感できる「ワンダーランド」なのです。

幼稚園には、感性豊かに学べる環境（仕掛け）が各学年の年間カリキュラムを基にしっかりと設定されておりますので、早寝早起きの生活リズムをしっかりと整え、感性のアンテナをピンピンに立てて登園されることを教職員一同でお待ちしております。